

————— *The Cultural Cold War : The CIA and the World of Arts and Letters* (New York : New Press, 2000).

● Smith, Julia

————— *Aaron Copland : His Work and Contribution to American Music*, (New York : E.P. Dutton & Company, Inc. , 1955).

【W】

● Wald, Alan M.

————— *The New York Intellectuals : The Rise and Decline of the Anti-Stalinist Left from the 1930s to the 1980s* , (Chapel Hill :
The University of North Carolina Press, 1987).

● Wallace, Henry A.

————— *The Century of the Common Man*, ed. Russell Lord, (New York: Reynal & Hitchcock, 1943).

————— *Toward World Peace*, (New York : Reynal & Hitchcock, 1948).

————— *Soviet-Asia Mission*, (New York : Reynal & Hitchcock, 1946).

● Widgery Claudia

————— “The Kinetic and Temporal Interaction of Music and Film : Three Documentaries of 1930’s America,” Ph.d Diss.,
University of Maryland, 1990.

● Woods, Randall Bennett

————— *Fullbright : A Biography* (Cambridge : Cambridge University Press, 1995).

【Z】

● Zuck, Barbara A.

————— *A History of Musical Americanism*, (Ann Arbor, Michigan : UMI Research Press., 1978).

● Zunz, Olivier

————— *Why the American Century ?* (London : The University of Chicago Press, 1998). (邦訳) ザンズ, オリビエ 『アメリカの世紀 : それはいかんこして創られたか?』有賀貞、西崎文子共訳、東京 : 刀水書房、1998年=2005年。

【邦訳書】

【あ】

● アメリカ合衆国商務省 編

————— 『アメリカ歴史統計』第1巻、斎藤真、鳥居泰彦監訳、東京 : 原書房、1986年。

● アルチュセール、ルイ

————— 『国家とイデオロギー装置』西川長夫訳、東京 : 福村出版、1974年=1975年。

● アルチュセール、ルイ、バリバル、エチエンヌ

————— 『資本論を読む』権寧、神戸仁彦訳、東京 : 合同出版、1965年=1974年。

● アンダーソン、ベネディクト

————— 『増補・想像の共同体 : ナショナリズムの起源と流行』白石さや、白石隆訳、東京 : NTT出版、1997年。

● イーグルトン、テリー

———— 『新版文学とは何か』大橋洋一訳、1983年=1997年。

●ウィリアムズ、ウィリアム・A.

———— 『アメリカ外交の悲劇』高橋章、松田武、有賀貞訳、東京：御茶の水書房、1986年。

●エマソン、ラルフ・ウォルドー

———— 『エマソン名著選・自然について』斉藤光訳、東京：日本教文社、1837年=1996年。

●エレーラ、ヘイデン

———— 『フリーダ・カーロ：生涯と芸術』有馬郁子訳、東京：晶文堂、1988年=1988年。

【か】

●クック、ニコラス

———— 「音楽的意味の理論化」福中冬子編・訳『ニュー・ミュージコロジー：音楽作品を「読む」批評理論』、東京：慶応義塾大学出版会、343～385頁。

●クルーグマン、ポール

———— 『格差はつくられた：保守派がアメリカを支配し続けるための呆れた戦略』三上義一訳、東京：早川書房、2007年=2008年。

●コンクエスト、ロバート

———— 『悲しみの収穫・ウクライナ大飢饉：スターリンの農業集団化と飢餓テロ』白石治朗訳、東京：恵雅堂出版、2007年。

【さ】

●シュペンクラー、オスヴァルト

———— 『西洋の没落：世界史の形態学の素描』（第1巻：形態と現実と）松村正俊訳、東京：五月書房、1918年=2007年。

●スクラー、ロバート

———— 『アメリカ映画の文化史・上』鈴木主税訳、東京：講談社学術文庫、1975年=1995年。

●スタム、ロバート、バーゴイン、ロバート、フリッターマン=ルイス、サンディ

———— 『映画記号論入門』丸山修、エグリトンみか、深谷公宣、森野聡子訳、東京：松柏社、1992年=2006年、

●ゼーデルマイア、ハンス

———— 『近代芸術の革命』石川公一訳、東京：美術出版社、1960年=1962年。

●ストーン、オリバー、ガズニック、ピーター

———— 『オリバー・ストーンが語る・もうひとつのアメリカ史 1：二つの世界大戦と原爆投下』高橋璃子ら訳、東京：早川書房、2012年=2013年。

【た】

●ダウリング、ウィリアム・C

———— 『ジェイムスン、アルチュセール、マルクス：「政治的無意識」入門講座』辻麻子訳、東京：未来社、1984年=1993年。

●チルダーズ、ジョゼフ、ヘンツィ、ゲーリー編

———— 『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』杉野健太郎ら訳、東京：松柏社、1995年=1998年。

●ディミトロフ、ゲオルギ

———— 『反ファシズム統一戦線』坂井信義、村田陽一訳、東京：大月書店、1935年=1955年。

●デンニエス、フェルディナンド

———— 『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト：純粹社会学の基本概念（上）』杉之原寿一訳、東京：岩波文庫、1887年=1957年。

●トクヴィル、アレクシ・ド

———— 『アメリカのデモクラシー』〔第二巻上〕、松本礼二訳、東京：岩波文庫（白9-4）、1840年=2008年。

【な】

●ニーチェ、フリードリヒ

—— 『悲劇の誕生：音楽の精神からの』『世界の名著 57 : ニーチェ』手塚富雄責任編集、東京：中央公論社、1872年=1978年。

【は】

●ハーツ、ルイス

—— 『アメリカ自由主義の伝統』有賀貞訳、東京：講談社学術文庫、1955年=1994年。

●バー、ヴィヴィアン

—— 『社会的構築主義への招待：言語分析とは何か』田中一彦訳、東京：川島書店、1995年=1997年。

●バーナウ、エリック

—— 『ドキュメンタリー映画史』安原和見訳、東京：筑摩書房、1974年=2015年。

●バルト、ロラン

—— 『物語の構造分析』花輪光訳、東京：みすず書房、1968年=1979年。

●ハンスリック、エドゥアルト

—— 『音楽美論』渡辺護訳、東京：岩波文庫、1854年=1960年。

●ピケティ、トマ

—— 『21世紀の資本』山形浩生、守岡桜、森本正史訳、東京：みすず書房、2013年=2014年。

●ヒンデミット、パウル

—— 『作曲家の世界』佐藤浩訳、1952年=1955年、東京：音楽之友社。

●ペイター、ウォルター

—— 『ルネサンス：美術と詩の研究』富士川義之訳、東京：白水社、1877年=1993年。

●ブルックス、ヴァン・ワイク

—— 「役に立つ過去」、『社会的批評・アメリカ古典文庫 20』国重純二・井上謙治訳、東京：研究社、1918年=1975年、192頁。

●フリードリック、オットー

—— 『ハリウッド帝国の興亡：夢工場の1940年代』柴田京子訳、東京：文藝春秋社、1986年=1994年。

●フレデリック・ルドルフ

—— 『アメリカ大学史』阿部美哉、阿部温子訳、町田：玉川大学出版部、1962年=2003年。

●フリン、カレル

—— 『フェミニズムと映画音楽』鈴木圭介訳、東京：平凡社、1992年=1994年。

●ベッツ、アルブレヒト

—— 『ハンス・アイスラー：人と音楽』浅野利昭、野村美紀子訳、東京：晶文社アルヒーフ、1976年=1985年。

●ベンヤミン、ヴァルター

—— 「複製技術の時代における芸術作品」高木久雄・高原宏平訳（1936年=1970年）、『複製技術時代の芸術』、東京：晶文社、1999年。

—— 「叙事演劇とは何か」浅井健二郎訳、1939年=1995年、『ベンヤミン・コレクション I：近代の意味』東京：筑摩書房、1995年。

●ボードウェル、デヴィッド、 トンプソン・クリスティン

—— 『フィルムアート：映画芸術入門』藤木秀朗監訳、名古屋：名古屋大学出版会、2004年=2007年。

●ホブズボウム、エリック

—— 『創られた伝統』前川啓治、梶原景昭訳、東京：紀伊國屋書店、1992年。

●ホフマン、E・T・A.

———— 「ベートーヴェン・第五交響曲」『無限への憧憬—ドイツ・ロマン派の思想と芸術』鈴木潔訳、東京：国書刊行会、1984年、350頁。

●ホーフスタッター、リチャード

———— 『アメリカ現代史：改革の時代』清水知久訳、東京：みすず書房、1955年=1967年。

●ホルクハイマー、マックス、アドルノ、テオドール・W.

———— 『啓蒙の弁証法：哲学的断想』徳永恂訳、東京：岩波書店、1947年=1990年。

【ま】

●マルクス、カール

———— 『経済学批判』武田隆夫、遠藤湘吉、大内力、加藤俊彦訳、東京：岩波文庫（白 125-0）、1934年=1956年。

———— 『共産主義者宣言』金塚貞文訳、柄谷行人付論、東京：平凡社、1848年=2012年。

●マンフォード・ルイス

———— 『技術と文明』生田勉訳、東京：美術出版社、1934年=1972年。

———— 『芸術と技術』生田勉、山下泉訳、東京：岩波新書、1952年=1954年。

———— 『都市の文化』生田勉訳、東京：鹿島出版会、1938年=1974年。

———— 『ユートピアの系譜：理想の都市とは何か』関裕三郎訳、東京：新泉社、1922年=1984年。

●メシアン、オリヴィエ

———— 『わが音楽語法』平尾貴四男訳、東京：教育出版株式会社、1954年。

●メルロ＝ポンティ、モーリス

———— 『見えるものと見えないもの』滝浦静雄、木田元訳、東京：みすず書房、1960年=1989年。

●モア、トマス

———— 『ユートピア』平井正穂訳、東京：岩波書店、1516年=1957年。
年=1993年。

●モナコ、ジェイムズ

———— 『映画の教科書：どのように映画を読むか』岩本憲児、内山一樹、杉山昭夫、宮本高晴ら訳、東京：フィルム・アート社、1981年=1993年。

●モースバーガー、ロバート・E

———— 「スタインベックの映画」、国際スタインベック協会編『ジョン・スタインベック』濱口脩、有木恭子、加藤好文訳、東京：旺史社、1992年=1992年。

【ら】

●ラクラウ、エルネスト、ムフ、ジャンタル

———— 『ポスト・マルクス主義と政治：根源的民主主義のために』山崎カヲル、石澤武訳、東京：大村書店、1985年=2000年。

●ルドルフ、フレデリック

———— 『アメリカ大学史』阿部美哉、阿部温子訳、町田：玉川大学出版部、1962年=2003年。

●レヴィ＝ストロース、クロード

———— 『悲しき熱帯 I』川田順造訳、東京：中央公論新社、1955年=2000年。

●レーニン、ウラジミール

———— 「大ロシア人の民族的誇りについて」、ソ同盟共産党中央委員会付属マルクス＝エンゲルス＝レーニン研究所編『レーニン全集』第21巻、マルクス＝レーニン主義研究所訳、東京：大月書店、1914年=1957年。